

「主体的な学び」推進委員会通信

第3号
令和8(2026)年10月2日
小郡市教育委員会

説明「全国及び福岡県学力・学習状況調査の分析結果の活用について」 指導主事 岡嶋

【説明の概要】一人一人の子どもの主体的な学びを推進するために、各学力調査の分析結果の活用について説明しました。特に、福岡県の学力調査においては、検査の特徴を生かした次のような分析・活用が大切です。

ポイント① 学力層の分布や変化に着目して分析 ⇒ 個に応じた支援体制に活用



【帳票28】からは、学力層を5つの層で分析した場合、同一集団における各学力層の学力の分布や変化(中2のみ)が分かります。例えば、左のT中(国語)の変化を見ると、学力低位層の折れ線グラフ(水色・紫色)の傾きが他の3つの学力層よりも大きいことが分かります。つまり、T中では、低位層へのきめ細かな支援が行われたことで、学力の底上げにつながっていることが分かります。このように、子どもの学力層の分布や変化に着目し、個別指導・少人数指導・TT指導等の支援体制づくりに活用することが大切です。

ポイント② 子どもの「学び方」に着目して分析 ⇒ 「自己調整の学び」の質的向上に活用



【帳票40】からは、子どもたちがどのような「学び方」をしているのかが分かります。例えば、左の市内中1の学習方略に係るグラフを見ると、小郡市の中1は、県と比べて、②勉強をする前に計画を立てる③大切なことを繰り返して書く⑤粘り強く学習するといった「学び方」に課題があることが分かります。このように、自校の子ども「学び方」の強みや弱みに着目し、課題に応じた「自己調整の学び」を質的に向上させていくことが大切です。なお、各学校の推進委員に活用データを配布していますので、お役立てください。

ポイント③ 一人一人の正答率に着目して分析 ⇒ 低位層の子どもへの支援に活用

帳票01【各教科の正答率3割以下の児童生徒】

(例・小中) 算数の学力レベル 6人

学年	教科	個人番号	学力レベル	市町村からの学力の伸び	正答率
5	1	00000000	3-A	—	88.7
5	1	00000000	3-A	—	59.3
5	1	00000000	3-B	—	76.7
5	1	00000000	3-A	—	43.3
5	1	00000000	3-C	—	23.3
5	2	00000000	3-C	—	60.0
5	2	00000000	3-C	—	83.3
5	2	00000000	3-A	—	26.7

本校の小中(国語)の正答率3割以下の児童は、0%

●この割合は「学力向上プラン」に記入。●左側は少人数・TT等で活用

【帳票01】からは、各教科の学力レベルや正答率が分かります。例えば、左の表のように、子ども一人一人の学力レベルや正答率がどのような状況かが分かります。また、この【帳票01】は Excel で構成されていますので、条件付き書式等を設定し、左のように正答率30%以下の子どもを抽出することも可能です。そして、この分析を、学年・少人数・TT指導等の組織で共有化し、低位層の子ども一人一人への支援とその変容の見取りを継続していくことが大切です。なお、詳しくは、立石小学校の好事例を参考にしてください。

実践報告①「児童一人一人の主体的な学びを支える組織的取組」 立石小学校 平野 早紀 先生より

【報告の概要】立石小学校では左下6つの組織的取組を進めています。児童の『アウトプット』を重視したり、児童一人一人の学力保障のために『引継ぎファイル』を作成して、切れ目のない支援をしたりしています。

- (2) 本校の組織的取組
- 効果があつたかも…の取組
- ①アウトプットを重視した授業
 - ②引継ぎファイル
 - ③学力低位層への支援
 - ④情報抽出、問題の読み取りの学習
 - ⑤教育環境、肯定的な声かけ
 - ⑥読書の奨励



実践報告②「生徒の主体性を高める家庭学習の充実とICT活用」 宝城中学校 中島 里彩 先生より

【報告の概要】 宝城中学校では、左下のグラフのように、ここ数年で、生徒のICT活用頻度が高まってきています。そして、ICTを活用授業と家庭学習を『スタディ・ログ』でつなぐことが、学びの振り返りや定着に役立っています。



協議「各調査結果を踏まえた自校の『主体的な学び』推進の取組」 各中学校区での協議



【成果と課題を分析する様子】

【全体で共有する様子】

宝城中校区

「めあて」に対する「まとめ」を子ども自身が作ったり、ゴール像を明確にした目的意識のある活動を意図的に仕組んだりしていきたい。また、朝活動や家庭学習の充実を図っていきたい。

三国中校区

校区の課題としてアウトプットする力が弱い面が見られるため、教材分析やゴール像の可視化を丁寧に進めていきたい。また、学びを調整する授業を全教科・全学年で確実に展開していきたい。

大原中校区

子どもたちがアウトプットをする機会を適切に確保するとともに、それに対して教師がしっかりと評価していきたい。また、ICTの効果的な活用に向け、職員研修を充実させ、中学校区として推進していきたい。

立石中校区

学ぶ内容や方法を自分で選択したくなり、自ら進んで取り組みたくなったりするような、魅力的な課題設定を意識して進めていきたい。また、小中合同研修会において、小中の課題に応じた作文教育に取り組んでいく。

小郡中校区

子どもがアウトプットできる場を意識的に設定するとともに、「めあて」や「まとめ」を子ども自身が作成する活動を取り入れ、達成感や成果を実感できる授業づくりを進めていきたい。また、CD層に対しては、丁寧な課題分析と資料作りを進め、適切に支援していきたい。

「子ども主体の学び」をめざして

教育長 秋永

今年の学校訪問では、初めての試みとして、中学校生徒代表と教育委員会との懇談を致しました。その中で、今の授業の受け止めについて尋ねると、子ども達は、こんなことを話してくれました。

- ・「前よりもタブレットを活用できており、学習の幅が広がっている。振り返りシートを書くことで、学習の定着に役立っている。」
- ・「大人になって社会に出てパソコンを使って仕事をするとと思うが、学校で使い慣れてICTの知識を蓄えることができると思う。」
- ・「『立中コム・ラーニング』（対話を重視した学び合い）は、自分たちで協力しながら課題を解決することに合っている。先生が教えることと、自分たちに任されることとのバランスがいい。達成感があるので今の授業を続けてほしい。」等

子ども達は、各学校の授業改善の取組について、好感を持って受け止めており、「学びがい」「学ぶ意欲」を感じているようです。そのことは、7月に行った調査結果にも現れています（下図）。

先生方の努力が子ども達の「学びに向かう姿」に結び付いていることに感謝致します。

